

現代の国語

総合学科

教 科	国語	単位数	2 単位	対象	1 年次	選択群	
使用教科書	高等学校新編現代の国語（第一学習社）			副教材等		履修	必修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
文章に現れた見方や考え方について言葉を通じて読み取り、話し合いや発表などの言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質や能力を養います。			<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし伝え合う力を高め、自分の考えを深める。 ・言語価値への認識を深め読書に親しみ、社会に関わる態度を養う。 			・1年次生全員が履修します。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	新しい出会い	・「未知」はいくらでもある	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の捉え方の理解と自己に照らしての考察 ・内容や構成、論理の展開、要旨の的確な把握 ・自分の考え方が的確に伝わる根拠の示し方、工夫 			
	5月	言葉が開く世界	・言語としてのピクトグラム	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴の理解 ・ピクトグラムを持つ言語としての機能の理解と言語表現についての多様性についての考察 			
	6月			<ul style="list-style-type: none"> ・文章に含まれる情報を関連付けながらの解釈、調べたことの整理、説明資料のまとめ 			
	7月	人間の風景	・十六歳のとき	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクトグラムの問題点や修正案についての発表 ・筆者の旅の追体験による多様な世界についての理解 ・事績を調べ、収集した情報の妥当性や信頼性を吟味 ・比喩表現の理解 			
	9月	社会と人間	・「弱いロボット」の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・開発意図の理解と、人とロボットの間にも生まれた関係性についての考察 ・筆者の仕事観についての理解と、それについての意見や考えの論述 			
	10月	現代と社会	・イースター島になぜ森がないのか	<ul style="list-style-type: none"> ・イースター島の歴史についての理解と筆者が提示する人類と生態系のあり方についての考察 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報相互の関係性 			
	11月	話して伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方の工夫 ・待遇表現 ・論理的な表現 ・情報の探索と選択 ・スピーチ・プレゼン 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能性についての自分の意見や論述 ・相手・目的・場面に応じた言葉遣い ・敬語表現を意識した言葉遣い ・説得力を意識した表現の工夫 ・情報の信頼性や妥当性の吟味のしかた ・わかりやすく説明するスピーチの方法とプレゼン 			
	12月			<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成のための話し合いを行う ・書き方の基礎レッスン 			
	1月	書いて伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成のための話し合いを行う ・書き方の基礎レッスン ・実用的な手紙文の書き方 ・地域の魅力を紹介する ・社会に対する意見文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・論点を共有し、考えを深める話し合いの実践 ・合意形成のため話し合いの重要性と進め方の理解 ・表記・表現の基本ルール ・接続表現、比喩などの表現技巧の理解 ・わかりやすい説明の実践 ・依頼文、案内文の書き方の理解 ・目的に応じた題材の決定と情報の収集 ・意見文の理解 ・自分の経験から導き出す意見 			
	2月						
	3月						
	学習方法	<p>【予習】 それぞれの文章の語句の意味、漢字の読み方、書き方を確かめておきましょう。</p> <p>【授業】 集中して授業に取り組み、理解に努めましょう。わからない内容は早めに質問をしましょう。</p> <p>【復習】 その日の学習内容について、板書した内容を中心にもう一度振り返り、課題等に取り組みましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識をふかめようとしているとともに、読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
※上記の観点を基に、各学期とも評価する。A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		A：6割 B：4割 Bは、授業態度、発表、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等		A：6割 B：4割 Bは、授業態度、発表、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等		1・2・3学期の平均	
備考							

言語文化

総合学科

教科	国語	単位数	2単位	対象	1年次	選択群	
使用教科書	高等学校新編言語文化(第一学習社)			副教材等		履修	必修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
日本における現代の文学的文章やさまざまな古典の文章を読み、日本の言語文化に触れることで、言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しむ態度を育てます。			<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に対する理解を深める。 思考力や想像力、読解力を伸ばし、心情を理解する。 読書に親しむ態度や、言語感覚を磨き、文学に対する関心を深める。 			1年次生全員が履修します。	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	小説を読む(一)	・島の少年一船	<ul style="list-style-type: none"> 描写に表れた登場人物の心情をそれぞれの視点で読み解くことで、小説の展開を捉える。 常用漢字の活用と語句、語彙の理解 			
	5月	古文入門	・古文の学習 ・一休ばなし	<ul style="list-style-type: none"> 古文に親しむ意義 話の内容と展開を押さえ、古文特有の仮名遣いと言葉になる。 			
	6月	漢文入門	・訓読に親しむ(一)～(三) ・狐借虎威	<ul style="list-style-type: none"> 漢文を訓読するための基礎知識 現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 故事成語の由来と現代の言葉のつながり 			
	7月	詩の楽しみ	・I was born	<ul style="list-style-type: none"> 散文詩に親しむ 作者の心情を自分事として共有し考えたことを話し合う。 			
	9月	小説を読む(二)	・羅生門	<ul style="list-style-type: none"> 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 作品の成立した背景をふまえ、内容を解釈する。 現代に通じる人間のありようを味わいながら、古文への親しみを深める。 			
	10月	古文に親しむ物語を楽しむ	・児のそら寝 ・伊勢物語「筒井筒」	<ul style="list-style-type: none"> 作品に表れているものの見方、考え方を捉え解釈する。 表現や押韻、対句などの技法に留意し鑑賞する。 古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 			
	11月	漢詩の鑑賞	・唐詩の世界 「春暁」「静夜詩」「春望」	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩の決まりを理解する。 伝統の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 短歌の表現技巧とその効果について 			
	12月	短歌と俳句	・大切な言葉 ・折句を用いて短歌を作る				
	1月	小説を読む(三)	・よだかの星	<ul style="list-style-type: none"> 小説という文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 作品の寓意を積極的に理解し、「生きる」ことについて考えたことを発表する。 			
	2月	随筆を読む	・徒然草・方丈記	<ul style="list-style-type: none"> 当時の世相を反映した文章を読み、古文に表れたものの見方や考え方の一端に触れる。 語句の量や語彙を豊かにする。 漢文の散文作品に触れて読みに慣れるとともに、文章中に示された教えを読み取る。 			
	3月	寓話	・両頭蛇				
	学習方法	<p>【予習】 それぞれの文章の語句の意味、漢字の読み方、書き方を確かめておきましょう。</p> <p>【授業】 集中して授業に取り組み、理解に努めましょう。わからない内容は早めに質問をしましょう。</p> <p>【復習】 その日の学習内容について、板書した内容を中心にもう一度振り返り、課題等に取り組みましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識をふかめようとしているとともに、読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。		
	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
※上記の観点を基に、各学期とも評価する。A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	A：8割 B：2割	A：8割 B：2割	1・2・3学期の平均				
	Bは、授業態度、発表、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等	Bは、授業態度、発表、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等					
備考							

